

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 専任講師

氏名： 上野山 晃弘

研究課題		ショーペンハウアーの生命の哲学と生命倫理の諸問題
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成30年度個人研究費は、以下の研究計画を実行するために使用された。本年度の研究は、現代の応用倫理的な諸問題(とくに生命倫理の諸問題)との関連の中で、ショーペンハウアーの倫理学と自然哲学の理論的・実践的可能性を探究することを目的としていた。本年度(2018年度)は、ショーペンハウアーの名著『意志と表象としての世界』成立の200周年にあたり、国内外で最先端の研究が続々と発表されているが、本研究では、最新の研究状況をふまえた上でショーペンハウアー倫理学の基礎的諸概念を再検討するとともに、その意義を現代的観点から再評価することをめざした。こうした研究を行う背景には、(人間を含む)自然界の生命がたんなる資源(手段)として使用される危機的状況への対応を、哲学思想研究の立場から模索しようとする問題意識があった。
	研究成果	研究成果としては、下記の論文「ショーペンハウアーの動物倫理再考——動物倫理から生命の倫理へ」を挙げることができる。ショーペンハウアーは動物の権利よりも結局人間の幸福を重視しており、その動物倫理はきわめて不十分なものに過ぎないという評価が、従来一般的になされてきた。しかし、本論文では、ショーペンハウアーの「権利」や「苦」等の基礎概念の意味を再検討し、動物倫理に関連する(複数の)テキストの意義をショーペンハウアー倫理学の全体像の中で総合的に評価することによって、従来とは異なる解釈を提示することができた。また、その議論の延長線上で、現代の生命医療倫理の問題に関する考察も展開することもできた。本論文は、(日本学術会議協力学術研究団体である)日本ショーペンハウアー協会の正式な査読審査を経て、その学術誌に掲載された。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文タイトル・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①論文:上野山晃弘「ショーペンハウアーの動物倫理再考——動物倫理から生命の倫理へ」『ショーペンハウアー研究』査読あり、第23号、2018年11月30日、127-140頁
	・学会発表等 発表者名・発表タイトル・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・タイトル・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	なし